

# SERI NEWS RELEASE

平成 24 年 11 月 22 日

一般財団法人静岡経済研究所  
理事長 鈴木一雄  
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13  
アゴラ静岡 5 階  
TEL054-250-8750  
FAX054-250-8770

## 第 36 回

## 「静岡県版 景気ウォッチャー」調査(平成 24 年 10 月)

### ～現状判断、先行き判断ともに 2 期連続の悪化～

- 平成 24 年 10 月実施の「静岡県版 景気ウォッチャー」調査では、県内景気の「現状判断指数（方向性）」は 37.0 と、前回 7 月調査（43.5）比で $\Delta 6.5$ ポイント低下し、景気横ばいを示す「50」を 2 期続けて下回る「悪化」判断となった。
- また、2～3 カ月先の「先行き判断指数（方向性）」は 43.6 と、前回調査（44.2）比で $\Delta 0.6$ ポイント低下し、こちらも 2 期連続の「悪化」判断となった。海外経済の減速、中国における日本製品の不買の動きなどから製造業を中心に業績が不安視され、雇用環境が悪化する中、消費者の購買意欲が高まらない状況が続くとみられる。

担当：山崎晃照

# 景気後退はより鮮明に 先行き懸念一層強まる

平成24年10月調査では、現状判断指数は前回調査（43.5）から△6.5ポイント低下し37.0と、2期連続で景気横ばいを示す「50」を下回った（図表1、2）。また、先行き判断指数も43.6と前回調査（44.2）から△0.6ポイント低下し、わずかであるが先行きへの懸念も強まっている（図表1、3）。

現状判断指数が低下した要因として、エコカー補助金終了による減産や海外経済の減速などにより製造業の業績が低迷し求人が減少傾向にあることから、雇用関連で前回比△13.9ポイントと大幅に低下したことや、家計消費関連で消費者に買い控えの傾向がみられることから同△5.8ポイント低下したことが挙げられる。また、先行き判断指数が低下した要因として、年末年始の需要増加を期待し家計消費関連で一部改善の動きが見られるも、海外経済の減速や近隣諸国との関係悪化により、企業業績の停滞が懸念されることから、事業所向けビジネス関連、雇用関連の指数が大幅に低下したことが挙げられる。

## 調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的としている。
- (2) 調査対象：家計消費、事業所向けビジネス、雇用など、経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者。

分野	ウォッチャーの代表的な業種
家計消費関連（n=76）	
小売関連（n=29）	百貨店、スーパー、乗用車販売、書籍販売 など
飲食関連（n=12）	飲食店、割烹、外食チェーン など
サービス関連（n=27）	観光ホテル、旅行代理店、カルチャーセンター など
住宅関連（n=8）	不動産販売、住宅販売、住宅展示場 など
事業所向けビジネス関連（n=17）	印刷、広告代理店、運輸、司法書士、情報サービス など
雇用関連（n=9）	人材派遣、職業紹介、求人情報誌 など

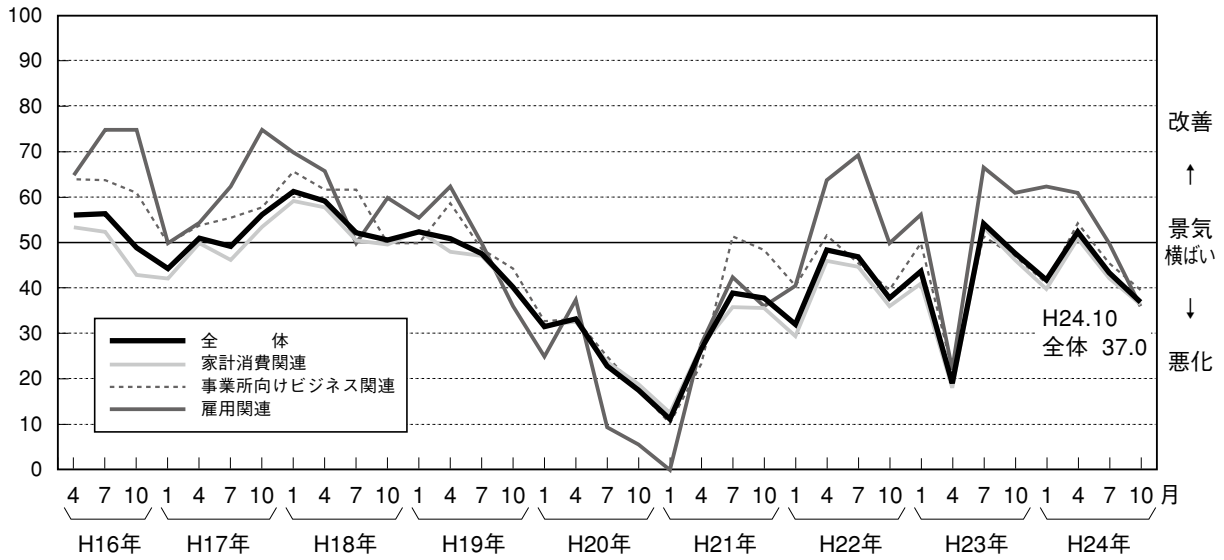
- (3) 調査方法：各企業の担当者に対するアンケート調査
- (4) 調査事項：①現在の景気の水準について  
②景気の現状に対する判断（3カ月前との比較）  
③その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など（自由回答）  
④景気の先行きに対する判断（2～3カ月先の予想）
- (5) 調査時点：平成24年10月下旬
- (6) 回答状況：調査対象108名のうち、有効回答を寄せていただいた方は102名で、有効回答率は94.4%である。

\* 景気判断指数とは、景気の現状や先行きに対する判断を点数化（下表）し、それらに各判断の構成比（%）を乗じて指数（D.I.）化したものである。これにより、判断指数（方向性）においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

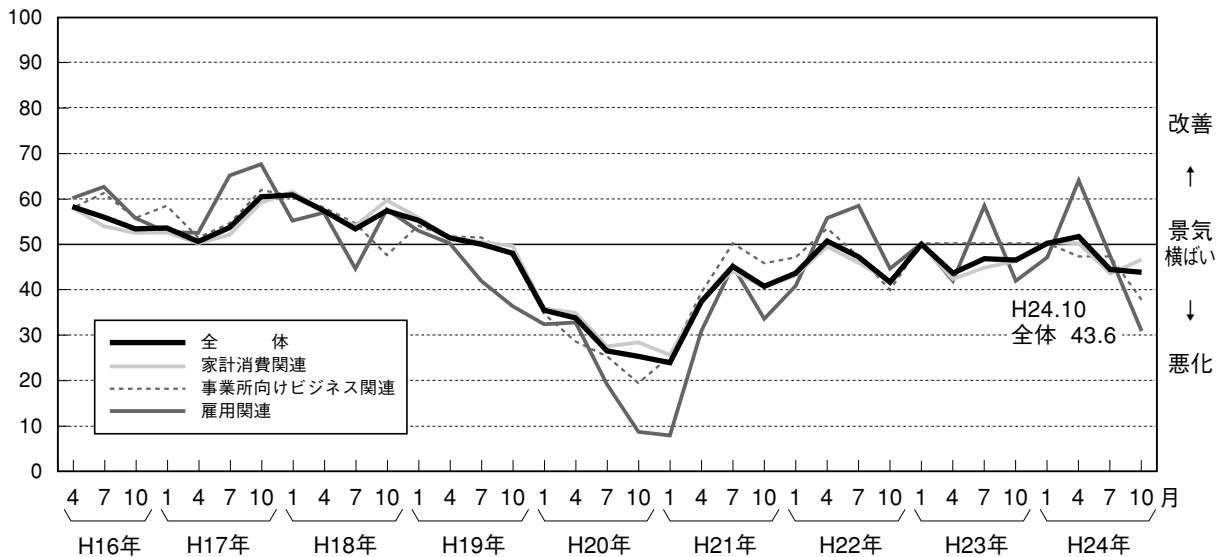
評価	現在の景気 (水準判断)	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い
	現状判断	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	
点数		+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

図表1 現状判断指数(D.I.)と先行き判断指数(D.I.)の推移

現状判断指数の推移



先行き判断指数の推移



D.I.は50が「景気横ばい」、上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示す